



群馬県コンクール 金賞

ぼくのおにぎり

太田市立九合小学校 3年 佐 藤 天

ぼくのお父さんの朝ごはんは、おにぎり2つです。

4月から、お父さんの出社時間がかわり、家ぞくといっしょに朝ごはんを食べる事ができなくなりました。

毎朝、お母さんがにぎったおにぎりを車の中で食べているそうです。

夏休み、ぼくは、

「明日のお父さんのおにぎり、ぼくが作りたい。」

と、言いました。具のリクエストは、うめと明太子です。のりはなしだそうです。

朝、お母さんがおなべでたいたたき立てごはんは、お米のあまいいいにおい。ほかほかでピカピカ光るお米を、うつわによそいで、しゃもじでサッサッと切るようにまぜて、うましおをパラパラとふりかけて、またサッサッと切るようにまぜる。お茶わんにラップをかけて、そこにはかほかごはんをよそい、たねをぬいたうめぼしをのせて、またごはんをのせたら、ラップをキュッとしめて、ギュッギュッとにぎります。あつくて手がまっ赤になって水でひやしながら、

「お母さんはなんで平氣なんだ？」

と、思いました。次は明太子です。明太子の時は、お茶わんでコロコロころがして丸めました。

ぼくのにぎったおにぎりをもって出社したお父さん。その日、お父さんが帰ってくるのがまちどおしくて、なんどもちゅう車じょうを見にいきました。

お父さんが帰ってきてすぐに、

「ぼくのおにぎりおいしかった？」

と、聞いたら、お父さんは、

「ギュッとにぎっていておいしかったよ。」

と、言ってくれました。うれしかったです。

「冬休みもまた作るね！」

と、お父さんと、やくそくしました。